

2022年3月期 第2四半期 決算説明資料

上村工業株式会社

東京証券取引所市場第二部 証券コード：4966

2021年11月30日

2022年3月期 第2四半期 決算概要

【連結会計期間】

日本国内(2社)：4月～9月／海外(10社)：1月～6月

● 表面処理用資材事業

- ・ 主力のプリント基板用及びパッケージ基板用めっき薬品は、5Gや半導体関連市場における需要拡大により、好調が継続した。

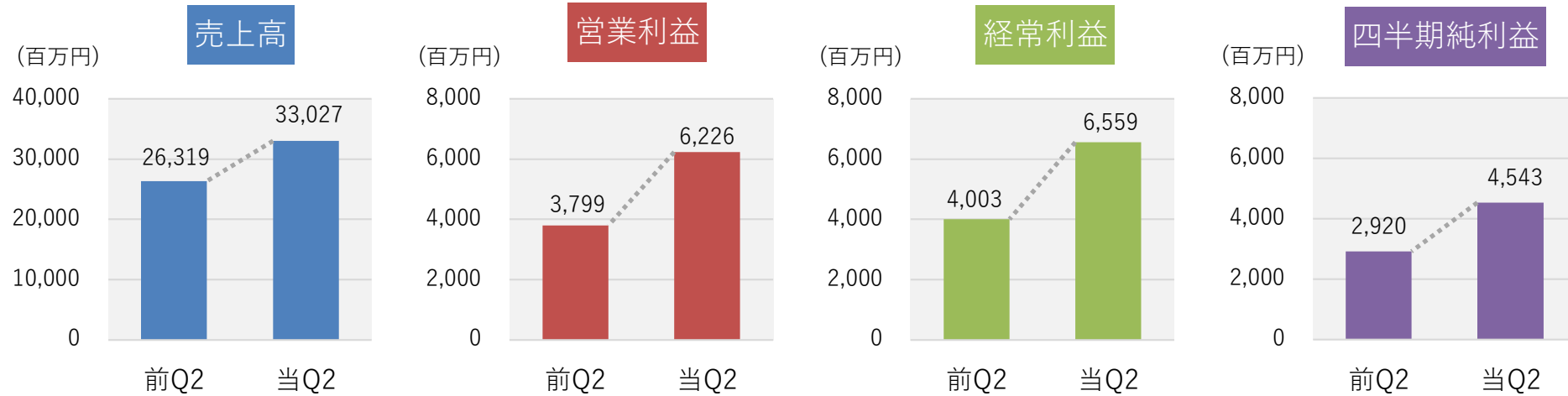
● 表面処理用機械事業

- ・ 半導体や電子部品向けの需要は引き続き堅調に推移したが、汎用的な表面処理用機械の販売が減少した。

● めっき加工事業

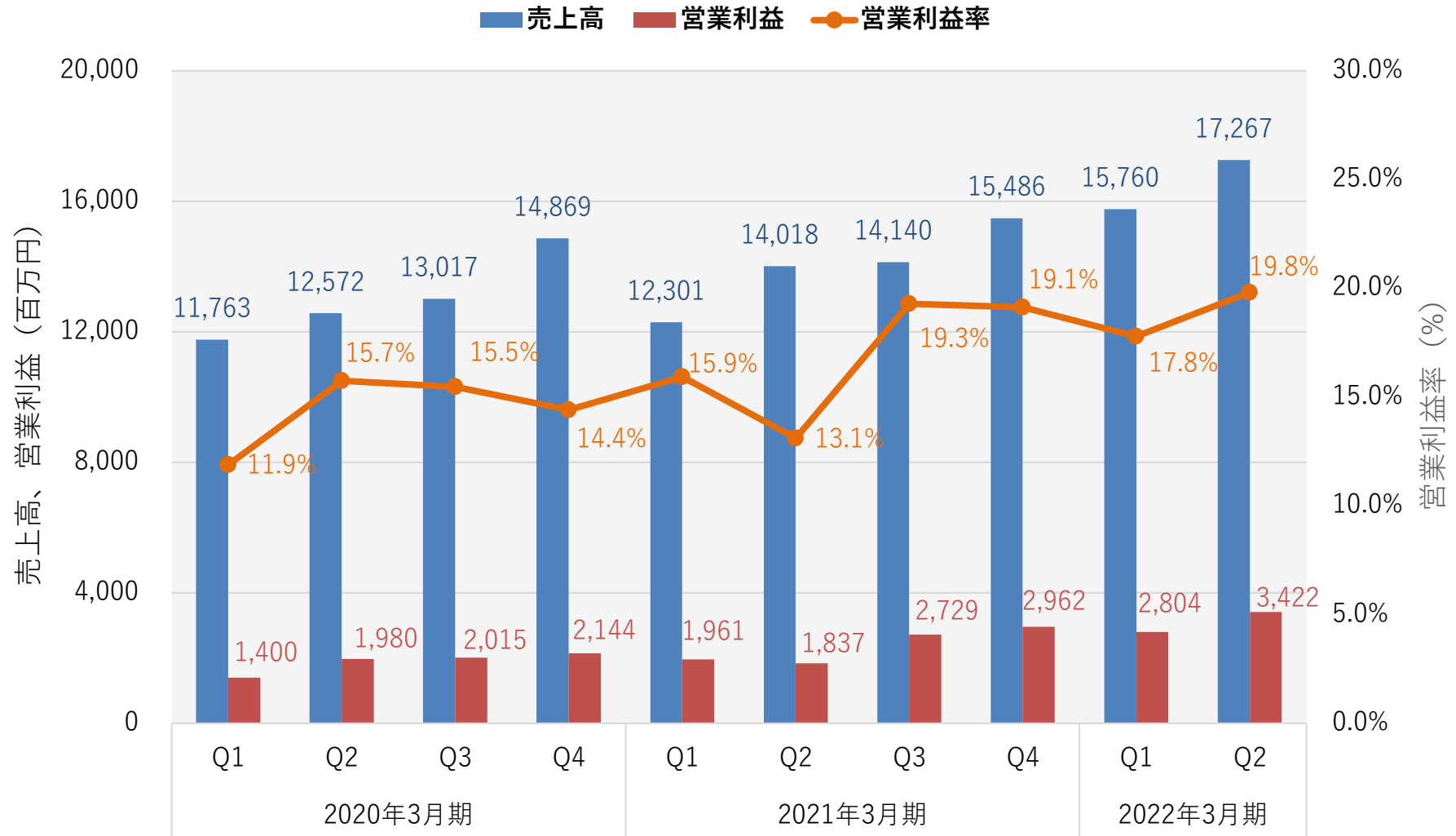
- ・ タイやインドネシアにおける自動車産業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による低迷が続いており、厳しい事業環境が継続した。
- ・ 台湾において行っているプリント基板へのめっき加工が好調に推移した。

2022年3月期 第2四半期 決算概要



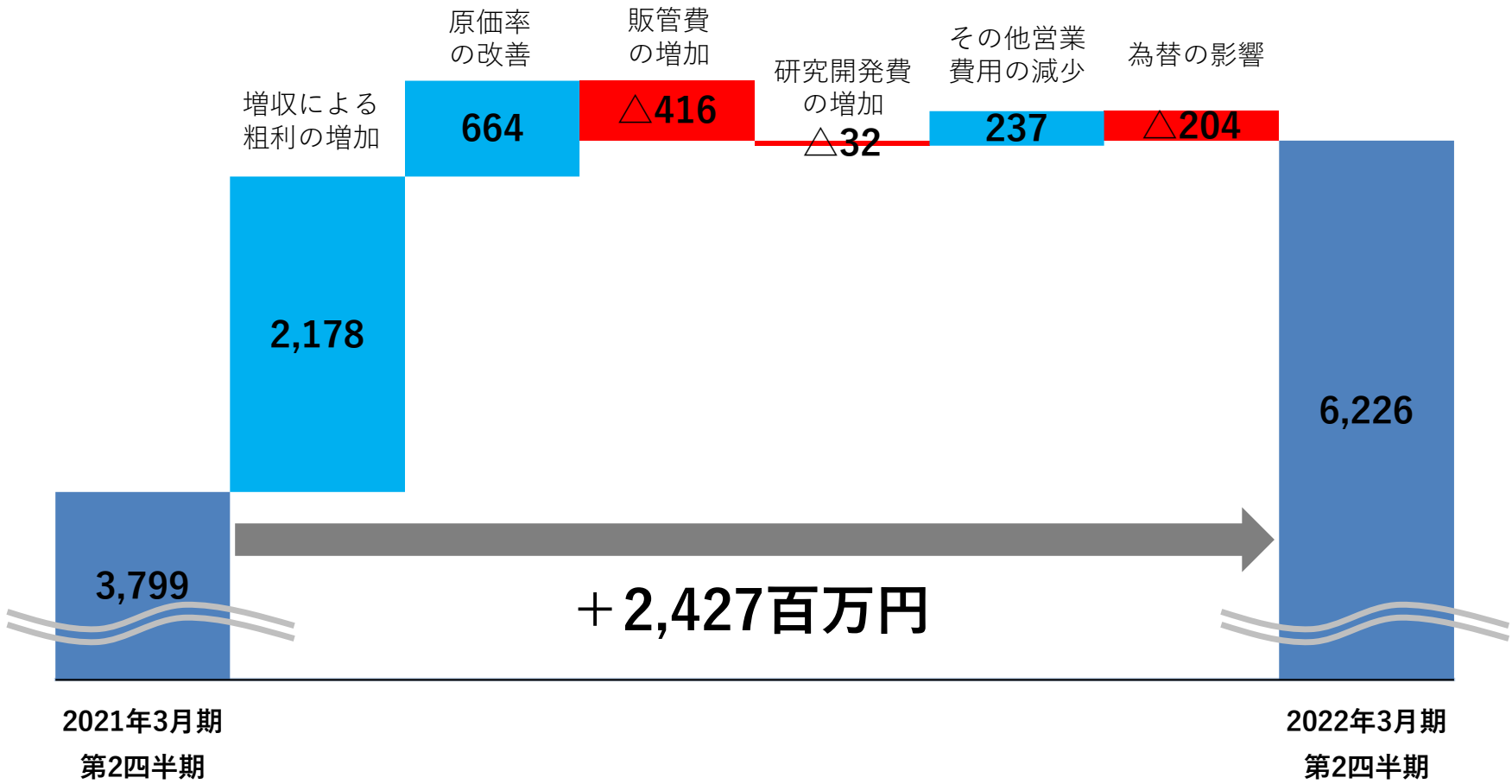
(単位：百万円)	前第2四半期 累計実績	当第2四半期 累計予想	当第2四半期 累計実績	前期比	予想比
売上高	26,319	25,700	33,027	+ 6,708 (+ 25.5%)	+ 7,327 (+ 28.5%)
営業利益	3,799	4,000	6,226	+ 2,427 (+ 63.9%)	+ 2,226 (+ 55.7%)
経常利益	4,003	4,100	6,559	+ 2,556 (+ 63.9%)	+ 2,459 (+ 60.0%)
四半期純利益	2,920	3,000	4,543	+ 1,623 (+ 55.6%)	+ 1,543 (+ 51.4%)
為替：米ドル	108.23円	107.94円	107.82円	0.41円高	0.12円高

四半期毎の業績推移

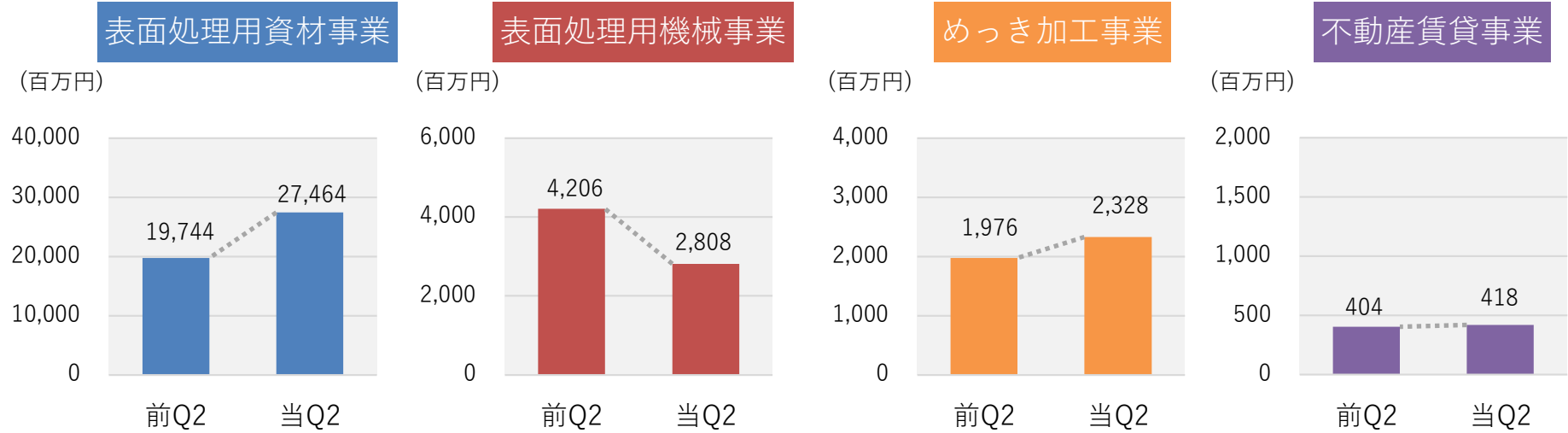


営業利益の増減要因

(単位：百万円)



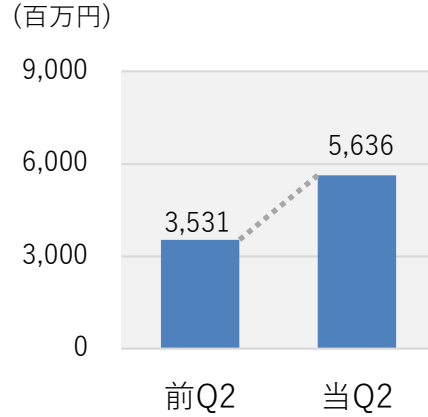
事業セグメント別売上高



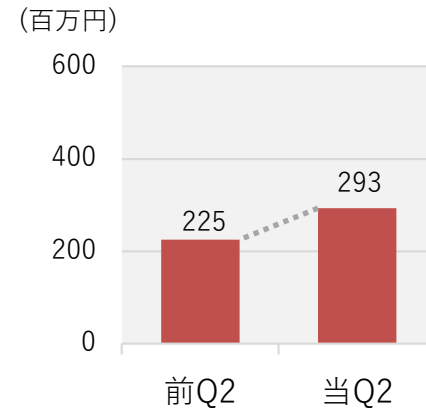
(単位：百万円)	前第2四半期 累計実績	当第2四半期 累計実績	増減額	増減率
表面処理用資材	19,744	27,464	+7,719	+39.1%
表面処理用機械	4,206	2,808	△1,397	△33.2%
めっき加工	1,976	2,328	+351	+17.8%
不動産賃貸	404	418	+13	+3.4%

事業セグメント別営業利益

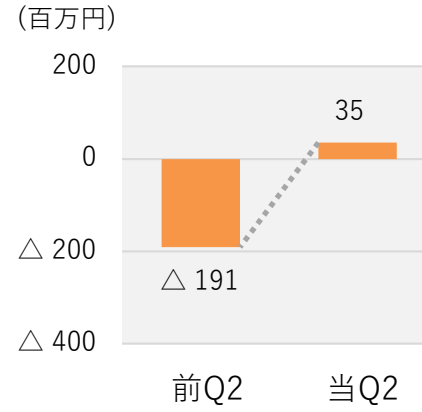
表面処理用資材事業



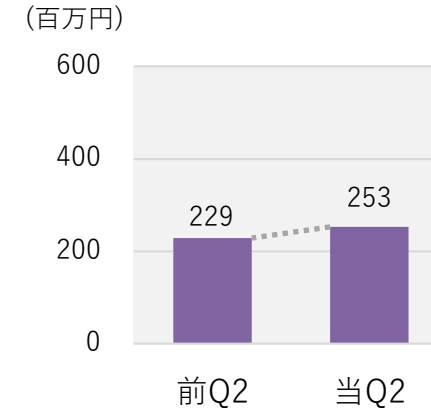
表面処理用機械事業



めっき加工事業

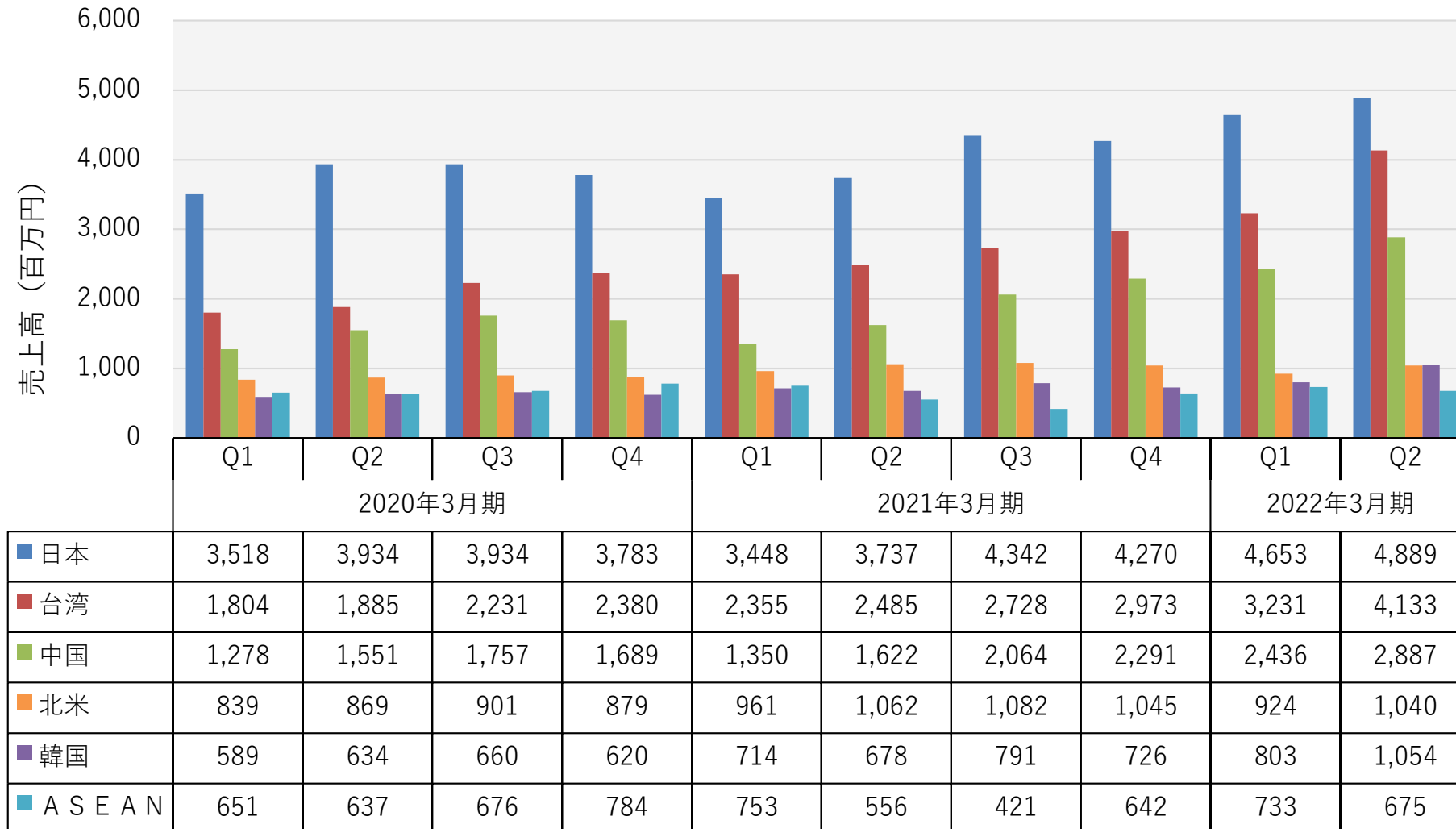


不動産賃貸事業

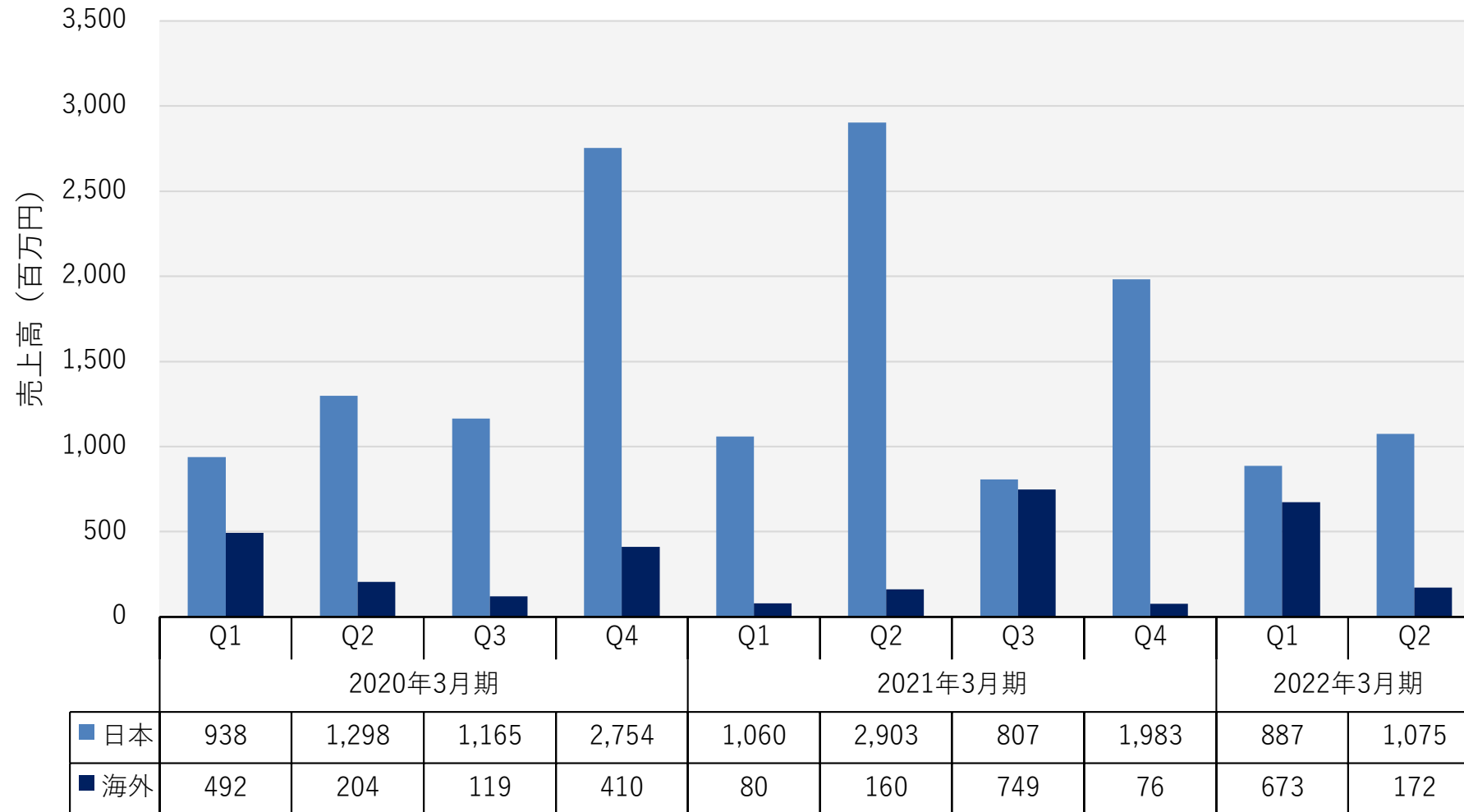


(単位：百万円)	前第2四半期 累計実績	当第2四半期 累計実績	増減額	増減率
表面処理用資材	3,531	5,636	+2,105	+59.6%
表面処理用機械	225	293	+68	+30.2%
めっき加工	△191	35	+226	-
不動産賃貸	229	253	+24	+10.6%

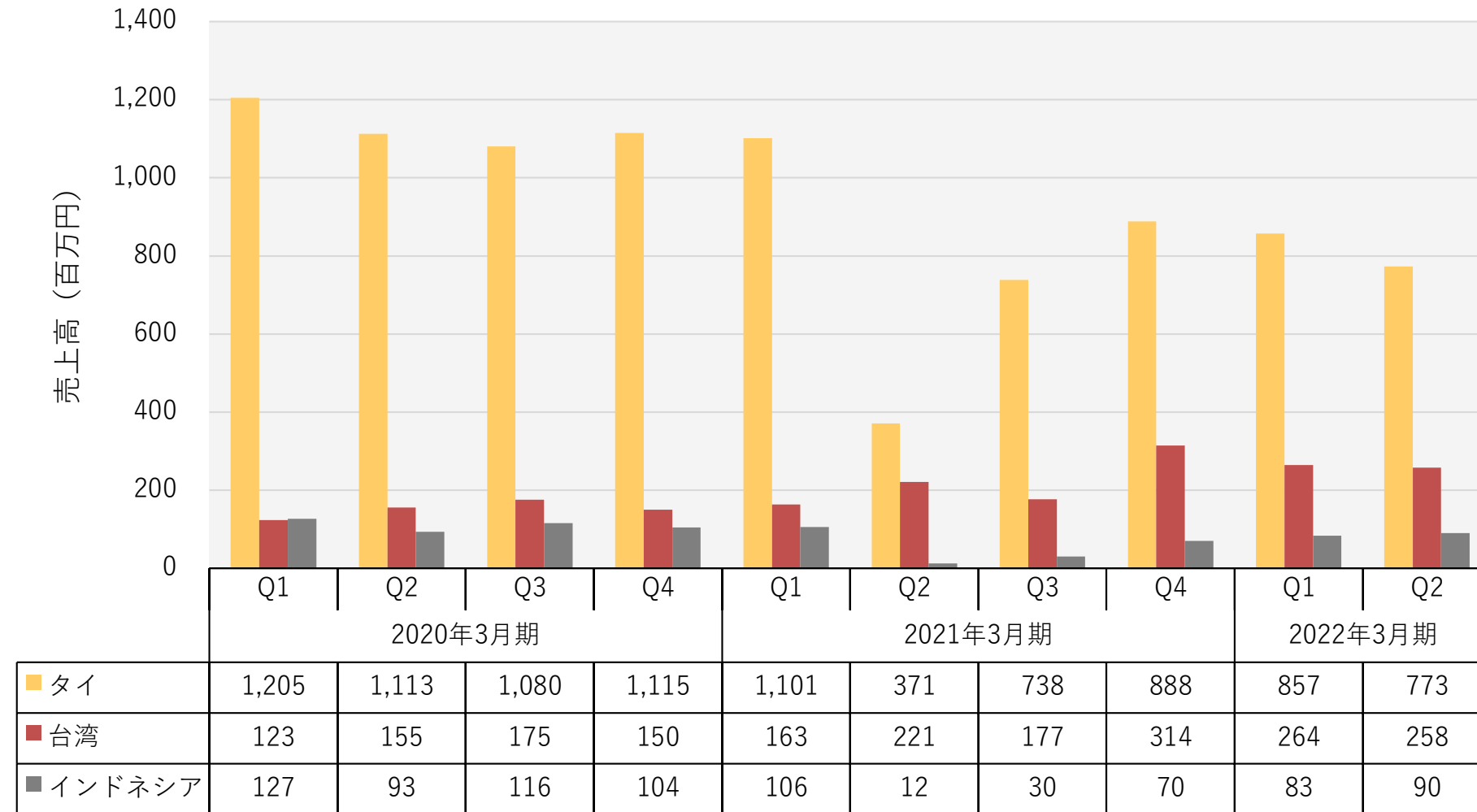
表面处理用資材事業 売上高推移



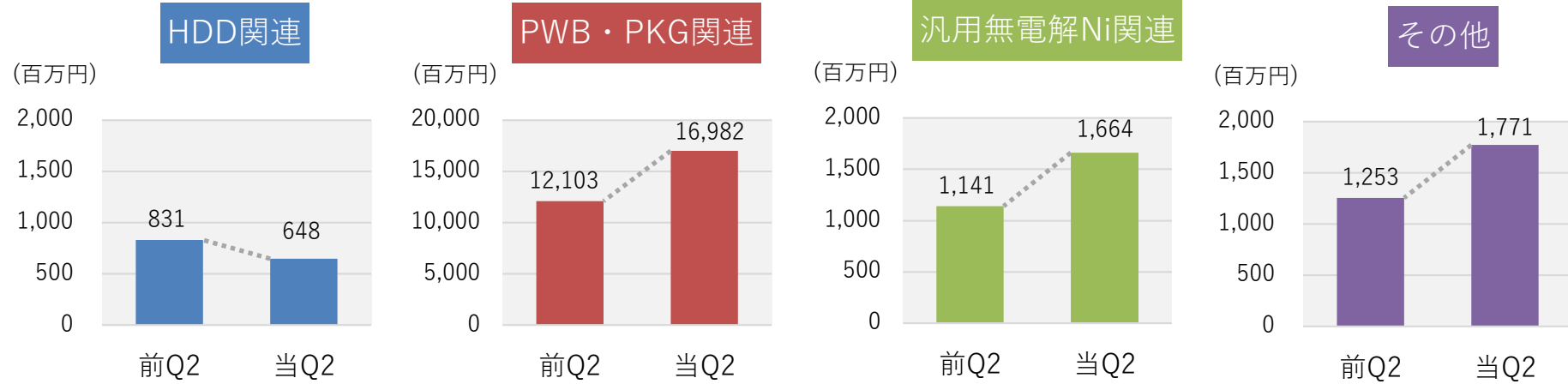
表面処理用機械事業 売上高推移



めっき加工事業 売上高推移



薬品カテゴリー別売上高



(単位：百万円)	前第2四半期累計実績		当第2四半期累計実績		増減額	増減率
		構成比		構成比		
HDD関連	831	5.4%	648	3.1%	△183	△22.0%
PWB・PKG関連	12,103	79.0%	16,982	80.6%	+4,879	+40.3%
汎用無電解Ni関連	1,141	7.4%	1,664	7.9%	+523	+45.9%
薬品その他	1,253	8.2%	1,771	8.4%	+518	+41.4%
合計	15,328	100.0%	21,066	100.0%	+5,738	+37.4%

薬品の売上高は、表面処理用資材事業に含まれます。薬品には研磨剤、工業薬品、金属等は含んでおりません。※内部売上高含む

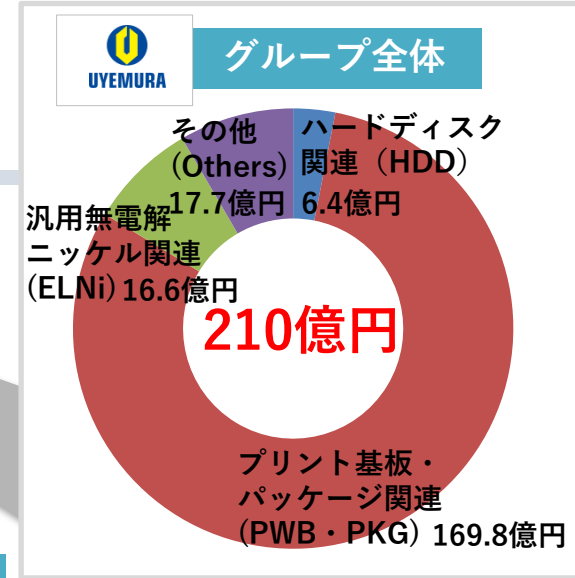
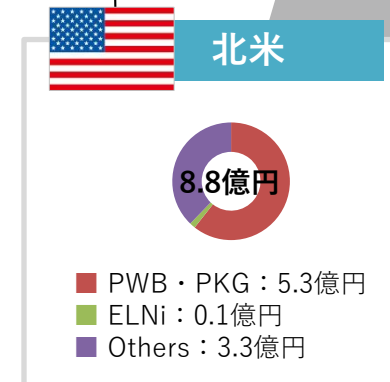
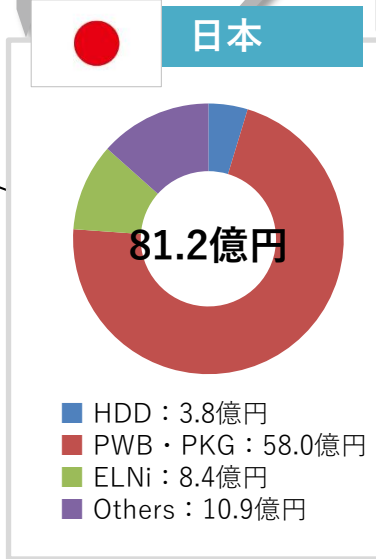
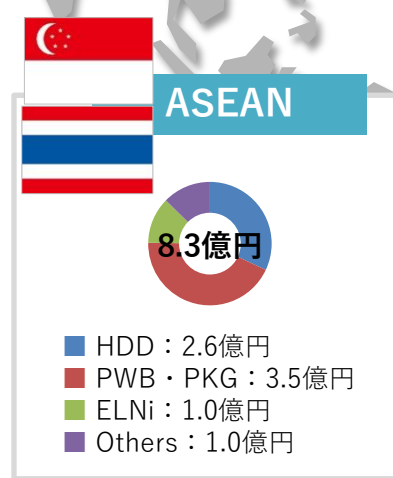
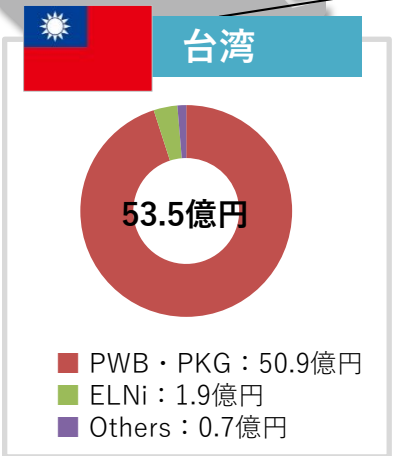
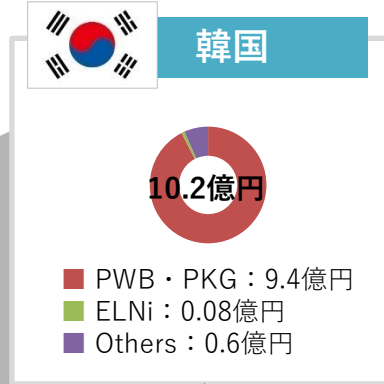
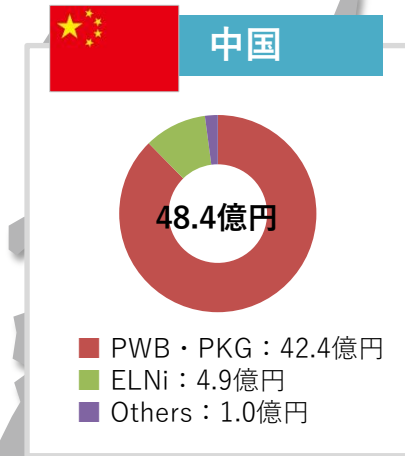
薬品ビジネス 最終製品までの流れ



地域別薬品売上高

2022年3月期 第2四半期累計

※内部売上高含む



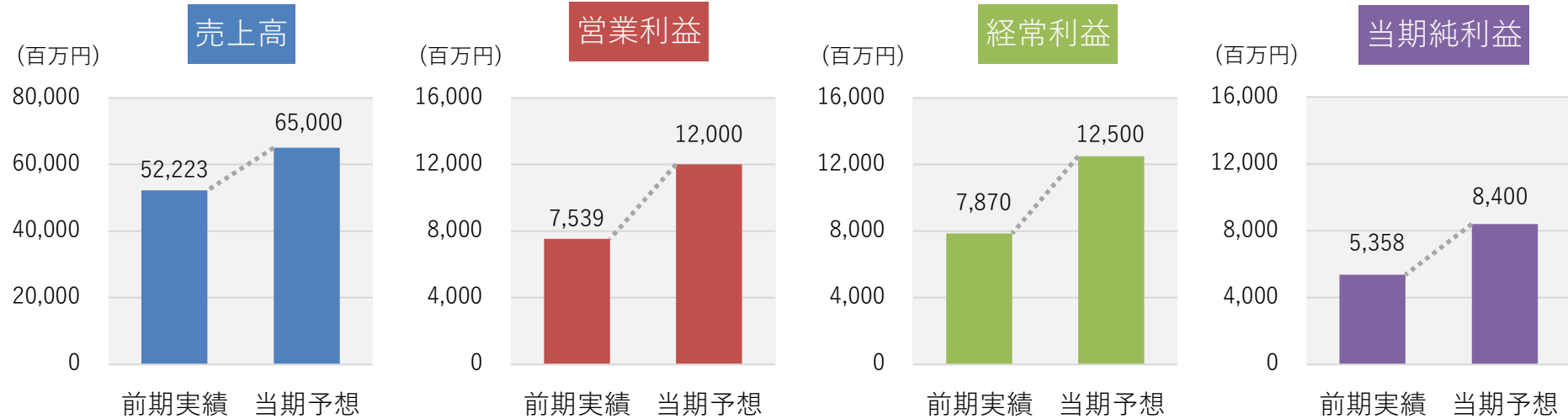
連結業績予想の修正

(単位：百万円)	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率
売上高	55,000	65,000	+ 10,000	+ 18.2%
営業利益	8,400	12,000	+ 3,600	+ 42.9%
経常利益	8,700	12,500	+ 3,800	+ 43.7%
当期純利益	6,000	8,400	+ 2,400	+ 40.0%
1株当たり 当期純利益	339.12円	474.76円		

《修正の理由》

引き続き5G（第5世代移動通信システム）関連や半導体関連市場において、プリント基板及びパッケージ基板用めっき薬品の販売が堅調に推移することが見込まれることから、売上高、利益ともに前回発表予想を上回る見通しとなりました。

2022年3月期 通期業績予想



(単位：百万円)	前期実績 (通期)	当期予想(修正後) (通期)	増減額	増減率
売上高	55,947	65,000	+9,052	+16.2%
営業利益	9,490	12,000	+2,509	+26.4%
経常利益	9,920	12,500	+2,579	+26.0%
当期純利益	7,128	8,400	+1,271	+17.8%
為替：米ドル	106.76円	109.05円	2.29円安	

2022年3月期 通期業績予想

● 事業セグメント別売上高・営業利益予想

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	前期実績	当期予想 (修正後)	当Q2 累計実績	対予想 進捗率	前期実績	当期予想 (修正後)	当Q2 累計実績	対予想 進捗率
表面処理用資材	43,131	55,200	27,464	49.8%	8,330	11,220	5,636	50.2%
表面処理用機械	7,825	4,600	2,808	61.1%	916	380	293	77.2%
めっき加工	4,196	4,400	2,328	52.9%	△222	△80	35	-
不動産賃貸	804	800	418	52.3%	454	480	253	52.8%

● 薬品カテゴリー別売上高予想

(単位：百万円)	前期実績	当期予想 (修正後)	当Q2 累計実績	対予想 進捗率
HDD関連	1,557	1,210	648	53.6%
PWB・PKG関連	27,233	33,900	16,982	50.1%
汎用無電解Ni関連	2,659	3,220	1,664	51.7%
薬品その他	3,051	3,330	1,771	53.2%
合計	34,501	41,660	21,066	50.6%

<参考> 為替感応度

2022年3月期想定レート：109.05円(JPY/USD)

円安に1円振れると通期で

- ・ 売上：約450百万円増
- ・ 営業利益：約50百万円増

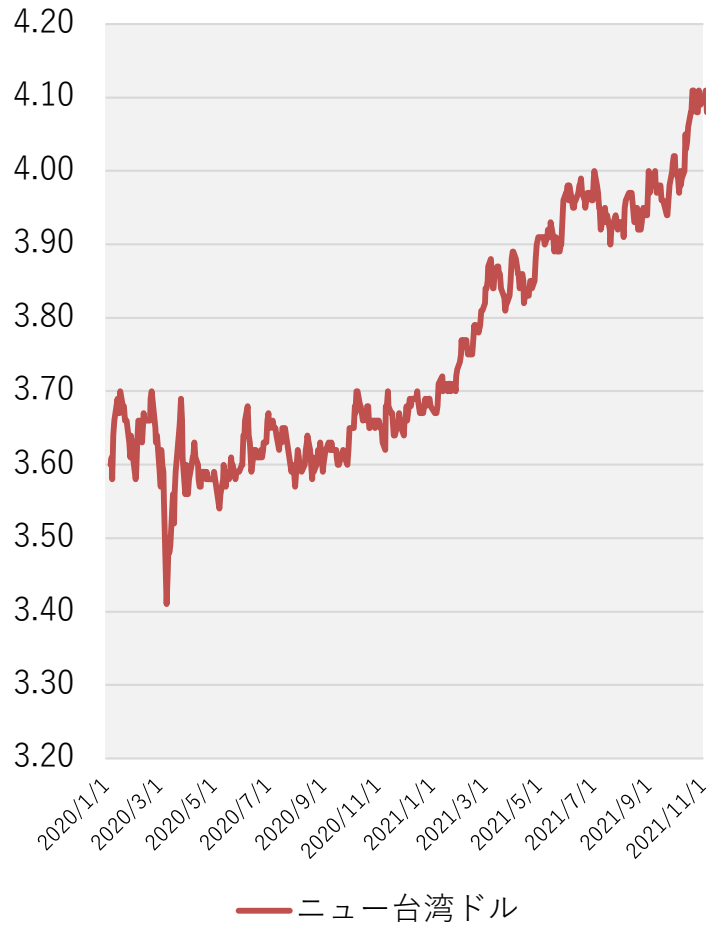
円高に1円振れると通期で

- ・ 売上：約450百万円減
- ・ 営業利益：約50百万円減

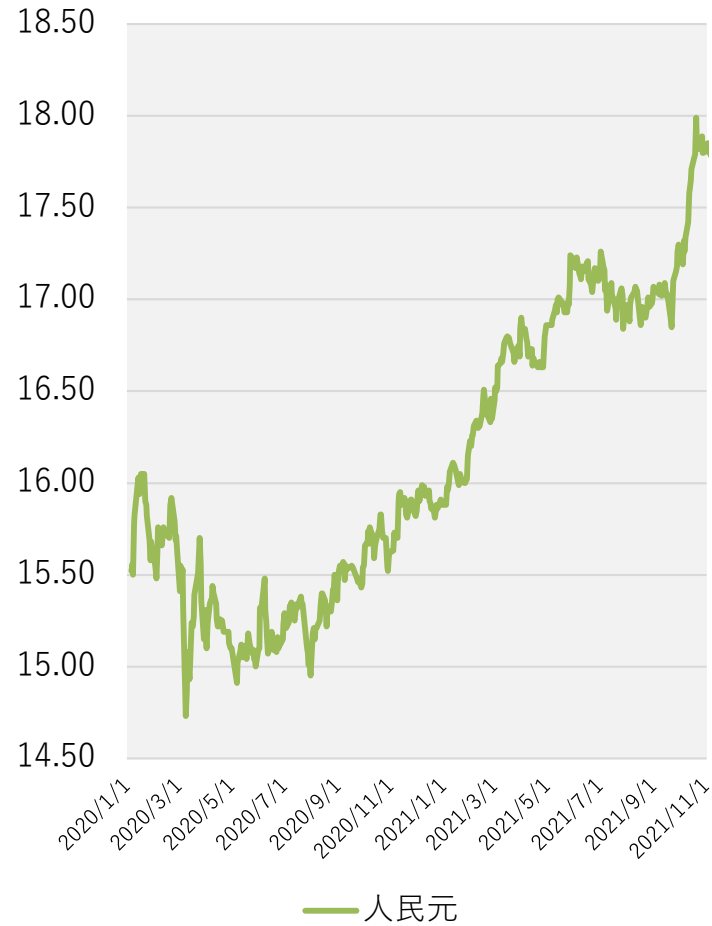
※米ドル以外の通貨も連動して動くことを想定しています。

為替レートの推移

ニュー台湾ドル



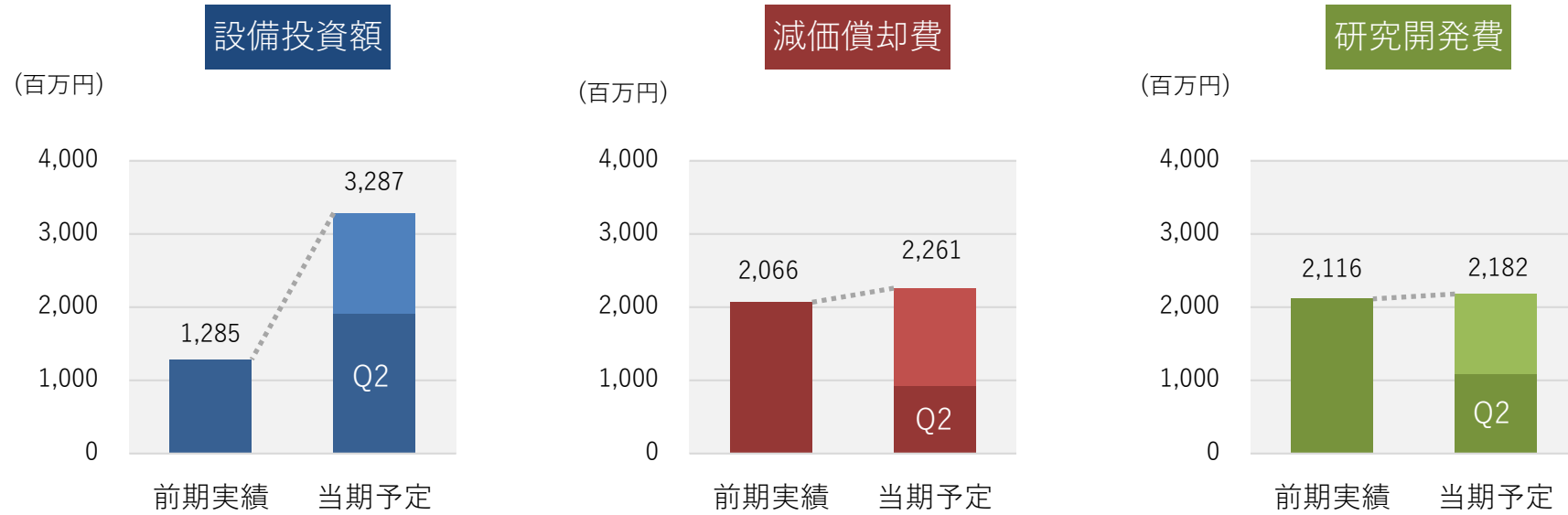
人民元



米ドル



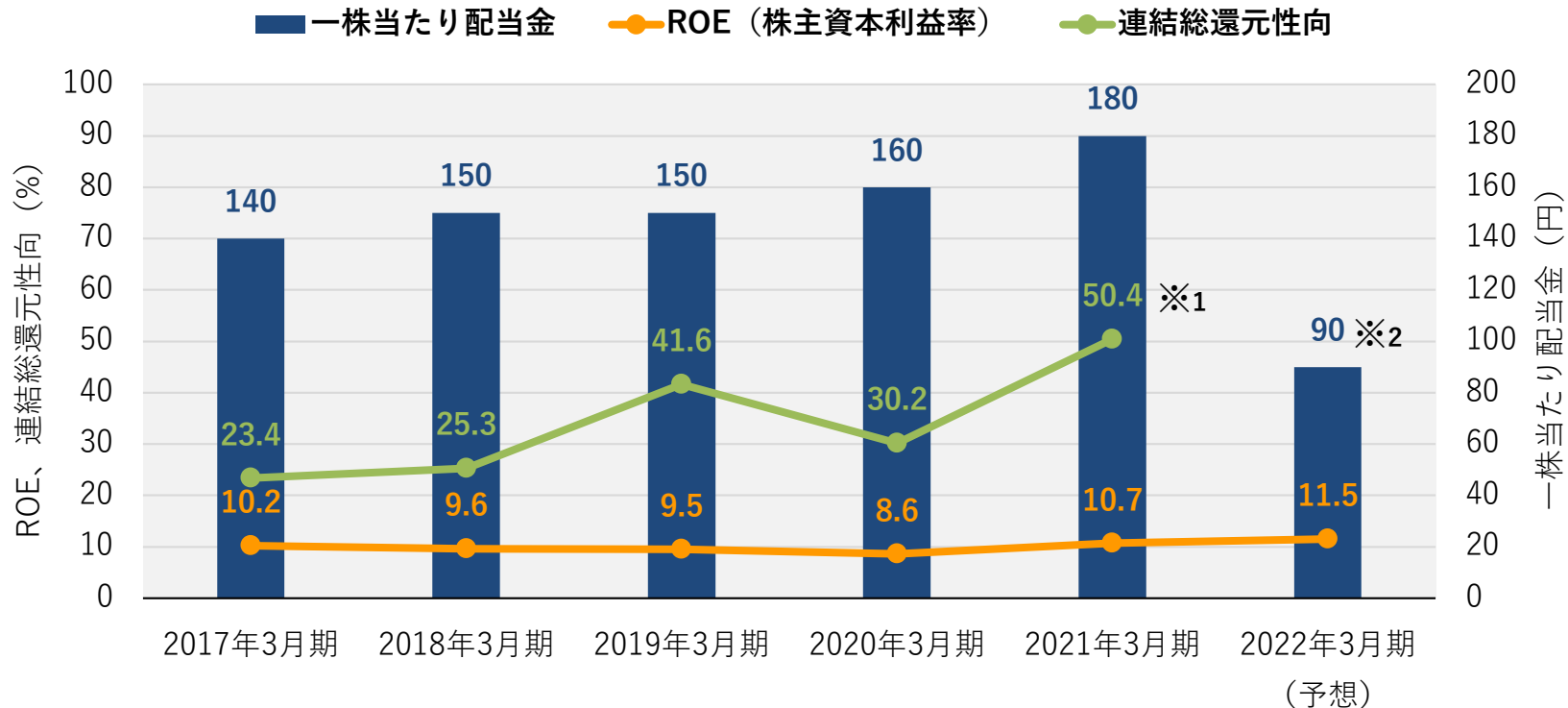
設備投資/減価償却/研究開発費



(単位：百万円)	前期実績 (通期)	当第2四半期 累計実績	当期予定 (通期)
設備投資額	1,285	1,919	3,287
減価償却費	2,066	926	2,261
研究開発費	2,116	1,091	2,182

資本政策

当社では、安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率の向上を基本方針とした資本政策に取り組んでおります。株主への利益還元につきましては、安定的な配当の継続を業績に応じて行うことが必要と考えており、ROE 8.5%(中長期的には10%)、連結総還元性向 30%を目標にしております。



※1 当社は、2022年3月期～2024年3月期の3年間で60億円規模の弾力的な自己株式取得を実施する目標を掲げており、2021年9月末までに1,999,824,500円の自己株式取得を完了しています。

※2 当社は、2021年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2017年3月期～2021年3月期については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

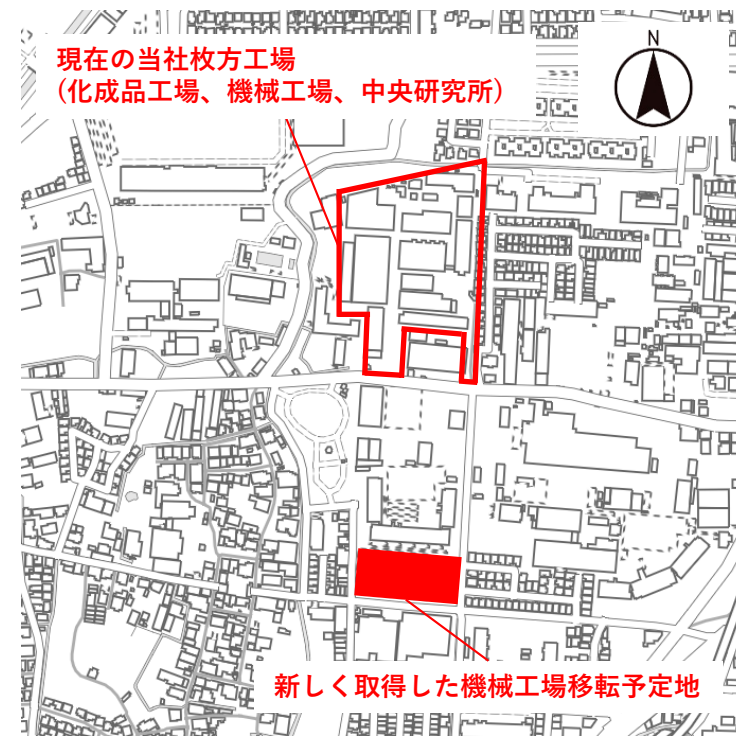
機械工場の移転と化成品工場の再構築を計画

現在、当社の枚方工場敷地内に立地している機械工場を移転するため、枚方工場の近隣地に新しく工場建設用地を取得いたしました。化成品工場は現機械工場区画を利用した再構築を進め、半導体分野の需要増加に備えた薬品生産能力の拡張に取り組んでまいります。

新機械工場の計画概要

- 所在地：大阪府枚方市出口
- 敷地面積：約4,978m²
- 総投資額：約32億円（土地・建物等）
- 地上3階建、2023年竣工予定
- SDGsやカーボンニュートラルに配慮した基本設計

枚方工場（大阪府枚方市）周辺地図



参考資料

顧客満足度向上を目指す 誠心を以って実行に徹底する

- 市場占有率が高い市場では、更に市場占有率を高めるための営業および開発戦略
- 市場占有率が低い市場では、市場占有率を上げるための営業および開発戦略
- 市場の流れに合う製造戦略
- 薬品、機械および液管理装置のトータルソリューションの提供

トータルソリューションシステム Total Solution for Plating Technologies

めっき用薬品

素材の表面に金属の薄膜を形成し、様々な機能性や装飾性を与えるための薬品

めっき用装置

大量の素材や難めっき素材に対するめっき工程を効率的に進めるための装置

液管理装置

めっき薬品の状態を常時分析し、薬液の補給を行うための装置

めっき加工

グループ会社ではウエムラ製のめっき用薬品や装置を使用しためっき加工工場を保有



▶当社は表面処理の事業分野である、めっき用薬品、めっき用装置、液管理装置の3つすべてを手掛けています。

またタイ・台湾・インドネシアのグループ会社をめっき加工の工場を保有し、ウエムラ製のめっき用薬品や装置を使用して、日々の生産を行っています。つまりめっき加工工場はウエムラ製品を扱ったモデル工場となっており、現場で実践的なノウハウを蓄積し、製品開発へのフィードバックにつなげています。

- **電子部品/半導体**

自動車関連では、電動化・自動化が進めば多くの電子部品・半導体が使用される。欧州・中国は電動化で電気自動車が加速。日本は多様な可能性に対応。電動車が増加すれば、モーター、バッテリー、PCUの需要も増加。自動化には、センサー、車載カメラなど多くの電子部品を搭載。自動運転実現のためには、より高度で多くの電子部品が必要。

5G関連では、2020年が5G元年的な位置付け。2021年からは対応端末が本格的に普及。基地局設置も2023年までは増加の見込。

データセンターは、コロナ禍の巣籠需要・在宅勤務などでの需要が増えたが、今後もクラウド化の加速により順調に伸びる。

- **めっき用装置**

半導体・電子部品・パッケージ基板供給不足に対応の為、設備投資は暫く堅調な見込。

- **当社が関係する原料・物流**

次亜リン酸ナトリウムは、無電解めっきには欠かせない原料だが、中国の電力不足などによる黄リンの大幅な減産などがあり、2021年末から価格が高騰中。

中国も電力不足の解消に向け対応してはいるので解消すると推測中だが、製造拠点が一か所に集中しているリスクがあるので、中国以外のソースを継続して探索中。

機械および電子関連部品不足は、東南アジアで新型コロナウイルス流行によるロックダウンの影響で生産量が減少。ロックダウンが解消後も、すぐに元の体制に戻るのは難しく暫くは部品不足が続く見込。

半導体は、自動車業界を中心に2024年まで供給不足の懸念。

原油高騰は、すべての製品の製造・搬送コストに影響し製造原価上昇が上昇中。

コンテナ不足は、新型コロナウイルス流行の影響で中国での湾岸や高速道路の封鎖の影響で各種手続きが遅延。

米国でも新型コロナウイルス流行で湾岸作業員不足による処理能力が低下し、入港待ち貨物船が大幅増加。

















船舶自体の不足も拍車をかける結果となり、物流に多大な影響を受けている。 新型コロナウイルスの終息で早期に解消に向かう事に期待している。

ESG・SDGsに関する取り組み

当社は「Growing together with  (UYEMURA:You)」のグループ共通スローガンのもと、ステークホルダーの皆様と共に成長・発展し、社会に貢献できる企業を目指しています



グループ会社一覧

会社名	設立年	所在地	主な事業内容
上村工業株式会社	1848年(創業) 1933年(設立)	日本	    
株式会社サミックス	1963年	日本	
ウエムラ・インターナショナル・コーポレーション	1985年	米国	  
上村(香港)有限公司	1986年	中国 (香港)	
台湾上村股份有限公司	1987年	台湾	    
サムハイテックス	1987年	タイ	   
上村工業(深圳)有限公司	1988年	中国 (深圳)	   
ウエムラ・インターナショナル・シンガポール	1992年	シンガポール	
ウエムラ・マレーシア	1996年	マレーシア	 
上村化学(上海)有限公司	2002年	中国 (上海)	
韓国上村株式会社	2010年	韓国	 
ウエムラ・インドネシア	2012年	インドネシア	 



営業



研究開発



薬品製造



機械製造



めっき加工



不動産賃貸

2021年9月30日現在

Growing together with

Uyemura Group Companies

- **Japan** C.Uyemura & Co., Ltd.
Sumix Corporation
- **USA** Uyemura International Corporation
- **Hong Kong** Uyemura International (Hong Kong) Co., Ltd.
- **Shenzhen** Uyemura (Shenzhen) Co., Ltd.
- **Shanghai** Uyemura (Shanghai) Co., Ltd.
- **Taiwan** Taiwan Uyemura Co., Ltd.
- **Korea** Uyemura Korea Co., Ltd.
- **Singapore** Uyemura International (Singapore) Pte., Ltd.
- **Malaysia** Uyemura (Malaysia) Sdn. Bhd.
- **Thailand** Sum Hitechs Co., Ltd.
- **Indonesia** PT.Uyemura Indonesia

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

